

かながわの水がめ

神奈川県は、相模川水系と酒匂川水系の2つの水源により県内水需要の9割以上をまかなっています。相模川水系には相模ダム・城山ダム・宮ヶ瀬ダム、酒匂川水系には三保ダムがあり、4つのダムは「かながわの水がめ」として大きな役割を果たしています。

皆さんが使っている水はどこから来るのでしょうか？

集水エリア

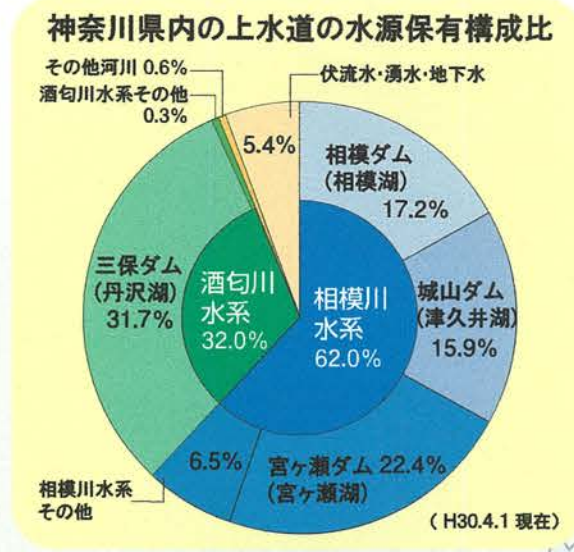
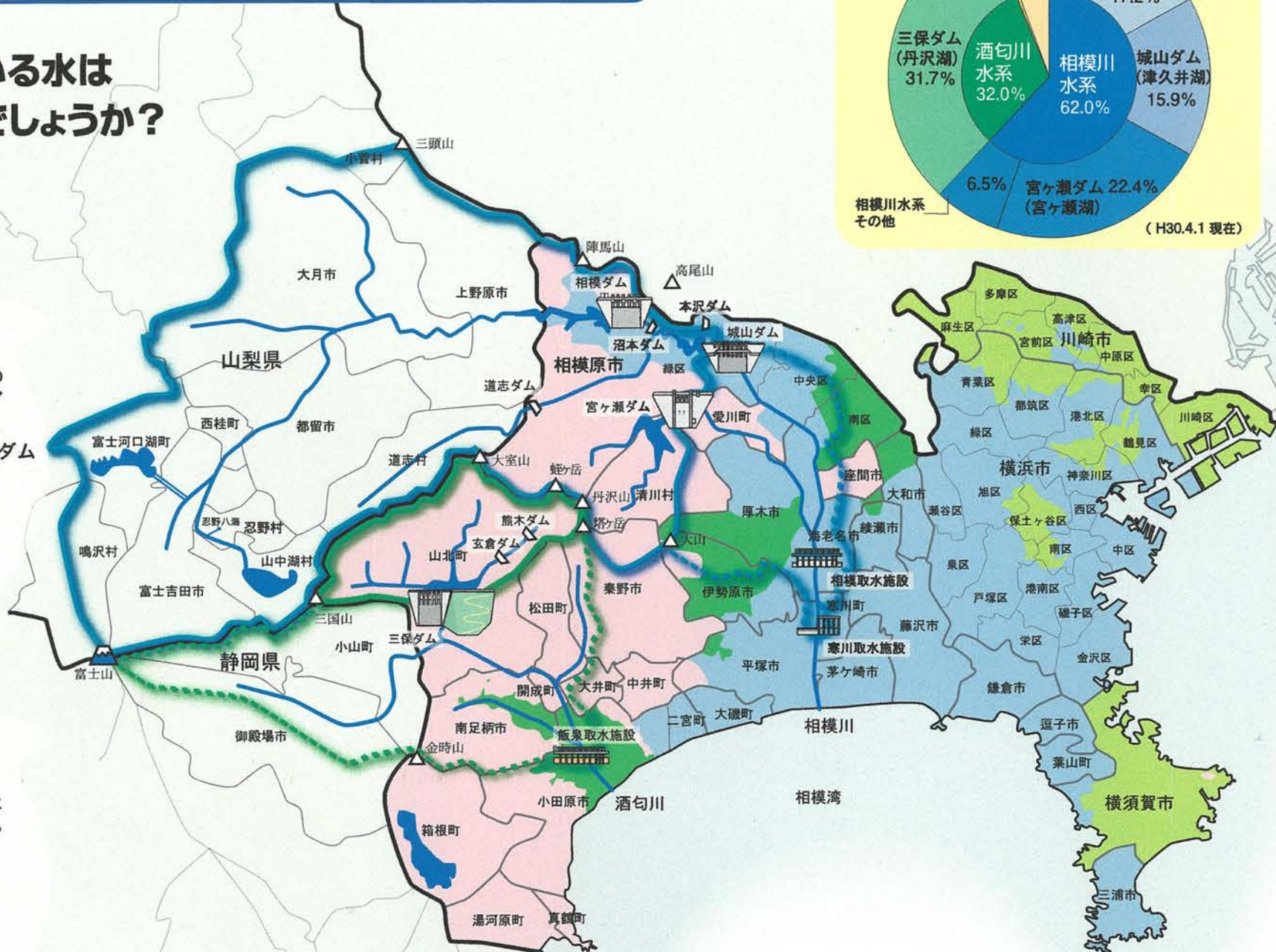
ダム上流域や、取水施設までのダム下流域に集まる水のエリアをご紹介します。

- 相模・城山・宮ヶ瀬ダム
- 寒川取水施設
- 三保ダム
- 飯泉取水施設

供給エリア

お住まいの地域にどの水系の水が届いているかをご紹介します。

- 相模川水系
- 酒匂川水系
- 相模川+酒匂川水系
- その他 (地下水、伏流水、湧水等)

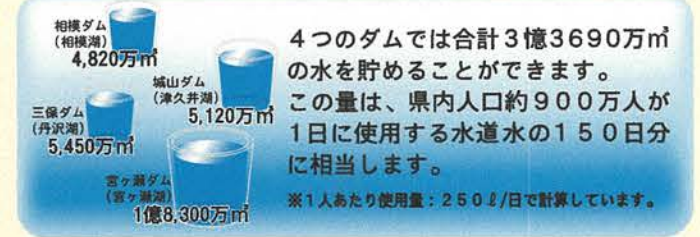


ダムの役割

水の安定供給

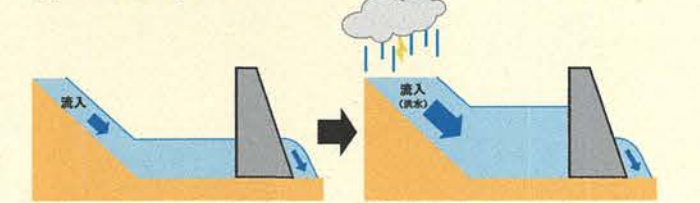
ダムでは、川の水量が多いときには水を貯め、反対に水量が少なくなったときには貯めておいた水を川に流すことで、水の安定供給を行っています。これにより、皆さんの暮らしに不可欠な水を確保するとともに、川の環境を保全しています。

かながわの水がめで貯められる水の量



洪水被害の軽減

台風などで大雨が降ると、川の水量が急激に増え、洪水の危険が高まります。ダムでは、流れ込む水の一部を貯めることで洪水被害を軽減しています。



①洪水に備えて容量を確保 ②洪水をダムに貯める

クリーンエネルギーの供給

ダムでは、水の高低差を利用した水力発電を行い、クリーンなエネルギーを生み出しています。

渇水に強い神奈川



総合運用

集水エリアや貯水容量の違いから、相模ダム・城山ダムは「水が貯まりやすいが、たくさん貯めることができない」、宮ヶ瀬ダムは「水が貯まりにくい、たくさん貯めることができる」という特徴があります。そこで、2つの地下トンネル(導水路)でつなぐことで、相模ダム・城山ダムと宮ヶ瀬ダムが連携して、効率よく水をやり取りする「総合運用」を行っています。

2水系間の連携

相模川水系と酒匂川水系を地下トンネルでつなぐことで、両水系の水を相互に利用する「2水系間の連携」を可能としています。これにより、水質事故や災害などの際にも、相互にバックアップを図ることができます。

※宮ヶ瀬ダムは国土交通省、飯泉取水堰・相模大堰・西長沢浄水場は神奈川県内広域水道企業団が所管しています。

